

## 編集後記

西暦 2000 年、21 世紀を迎えてどのような時代になるのか、今、パソコンやインターネットの普及による、IT（情報技術）革命が急速に進んでいます。

19 世紀に車が誕生し、人々は車を利用しました。車が豊かな暮らしと社会・経済の繁栄を享受したともいえます。しかし、一方で交通事故は増え、道路は混み、環境の悪化など、道路交通公害が社会問題として大きく取り上げられました。

人々は、これら負の遺産を 21 世紀へ持ち込みました。同時に交通事故、交通渋滞、環境への悪化などを解決すべく、ITS（高度道路交通システム）技術の研究開発・実用化を進めてきました。ITS 技術の一つ VICS（道路交通情報通信システム）は 1996 年にサービスが開始されました。ETC（ノンストップ自動料金収受システム）技術においては、関西では高速道路の料金所で 2000 年度中に運用が開始され、2002 年度末までに全国展開される予定のようです。また、AHS（走行支援道路システム）技術の開発も進んでいるようです。

自動車メーカーも、エンジンの改良、車体の軽量化、ガソリンと電気併用のハイブリッドカー、メタノール車などの「エコカー」を続々開発しています。

通信メーカーや、電気メーカーと一体となって、近い将来、ボタン操作で目的地までの道路の混雑状況を即座に各自動車に伝達し、通行道路を選択・誘導、車の速度、車間距離、到着時間が計算され、自動的に目的地まで早く運んでくれるようになるでしょう。

その結果、道路の渋滞緩和、燃料の節減、排気ガスの減量といった社会的便益が大きくなり、安全性の向上、交通の円滑化、公害問題等がかなり解決されるものと考えられます。

また、ITS 技術は様々な新技術への応用や、新たなサービスへと展開される期待があります。

おわりに、技報第 18 号の発刊にあたり、特別論文を執筆して頂きました岐阜大学名誉教授小柳治先生、編集委員長で巻頭言を執筆して頂きました並川審議役をはじめ、論文執筆者および編集委員、幹事の皆様に大変なご苦勞をおかけしました。心より厚くお礼申し上げます。

(管理技術センター開発研究部 記)